

GWI Update 2017年6月28日号

国連人権理事会第35回会合にてGWIが意見表明

6月14日、国連人権理事会の第35回会合において、GWIのステートメントがStacy Dry Lara執行理事によって述べられた。

ステートメントの中でGWIは、教育に対する各国の説明責任や必要とされるジェンダーへの配慮が進まない原因として汚職を非難し、また、各国が女兒の教育の重要性を受け入れ、汚職は女性と女兒にむかい得る教育資源を徐々に蝕んでしまうことに気づくよう訴えた。

GWIはまた、不正行為や汚職について全面的な調査を受け入れるよう各国に求めている国連人権理事会の特別報告者への賛同を表明した。GWIは、各国に対し、制裁を制度化し、国の説明責任を明確にするため、通報手続きを確立するようにも求めた。そして、GWIは、国連人権高等弁務官事務所による、「すべての女兒が教育を受ける権利を対等に享受するまで(*Realisation of the Equal Enjoyment of the Right to Education by Every Girl*)」という報告書を支持した。Stacyのステートメントは[こちら](#)からご覧になれます。

GWI Update 2017年6月14日号

GWIが児童労働反対世界デーに参加

6月12日、GWIは、国際労働機関(ILO)が国連ジュネーブ事務局(UNOG)で開催した記念式典に出席し、児童労働反対世界デーを祝った。

約200名の参加者は、UNOGにあるAriana公園の「再生」と名付けられた彫刻の近くに集まり、2025年までに児童労働を撲滅させることを誓った。なかでも、UNOG事務局長のMichael MoellerとILO事務局長のGuy Ryderが所見を述べ、Ryderは、「紛争や災害によって影響を受けた地域の児童が最も被害を受けやすい。誰一人取り残されてはいけない、」と出席者に向けて語った。また、特筆すべきは、レバノン出身の学生であり、NGO Beyondの支援者であり、National Podium Against Child Laborの主唱者でもあるAbbas Ahmad Assiが行った、彼が児童労働に従事させられた耐えがたい年月についての証言だろう。その後、すべての児童労働者に捧げられたダンスパフォーマンスと詩の朗読が行われた。

世界では、およそ1億6800万人の児童が児童労働に追い込まれている。多くの児童労働者は、危険な条件と彼らを捕えた大人たちからの暴力にさらされている。児童は教育を受けられず、その中でも女兒はさらに被害を受けやすい。

GWIは、すべての形の児童労働の根絶をはじめとする、女兒が安全な教育にアクセスするのを阻む障壁を取り除くための努力を継続的に行っていく。